英語科

教科領域研究テーマ
【ＥＳＤを踏まえた
コミュニケーション能力を育成する指導の工夫
－４技能を総合的に育成する言語活動を通して－ 】



英語科

ESDを踏まえたコミュニケーション能力を育成する指導の工夫

― ４技能を総合的に育成する言語活動を通して ―

実　践　者　河野　圭美，吉岡　　瞳
共同研究者　愛媛大学教育学部　池野　　修

第１章　はじめに

１　研究テーマ設定の理由について

国際化，情報化が進む社会の中で，様々な情報を得たり，世界中の人と交流したりする機会が多くなった。だれもが安心して暮らせる社会を作っていくために，異なる文化や価値観を尊重しつつ，自分の考えなどを相手に伝える力が大切である。また，人と人とのつながりの希薄さや人間関係づくりの脆さが感じられる今，よりよく生きていくために，積極的に人と関わっていく力が必要である。そこで英語科では，ESDを踏まえたコミュニケーション能力とは，自分の気持ちや考えを表現し，伝える力（自立の力），互いの個性や存在を認め，異なる文化や価値観をもった人々とともに生きていく力（共生の力）であると考えた。

学習指導要領改訂では，「『聞くこと』，『話すこと』，『読むこと』，及び『書くこと』の４技能の総合的な指導を通して，これらの４技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成する」ことが示された。また，「小学校の段階での外国語活動を通じて，音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度の一定の素地が育成されることを踏まえ，指導内容の改善を図る」ことが求められている。

このようなことから，４技能を総合的に活用できる言語活動を通して，自他を認め自信をもって発信していこうとする力をもった生徒を育成したいと考え，本研究テーマを設定した。

２　研究の視点

(1)　授業後に行う生徒の意識調査の結果や創作活動・コミュニケーション活動の観察から，既習の英語を使って，自分の気持ちや考えを表現し伝える力の育ちを分析する。　（自立）

(2)　授業後に行う生徒の意識調査の結果や創作活動・コミュニケーション活動の観察から，互いの価値観や個性を認める力の育ちを分析する。　（共生）

(3)　授業後に行う生徒の意識調査の結果や創作活動・コミュニケーション活動の観察から，自分に自信をもち積極的に相手に働きかけようとする力を高めることができたか分析する。
（自尊心・自尊感情）

第２章　研究の実際

研究（その１）

「自己紹介をしよう」　～スピーチ活動の実践より～

（実践者）河野　圭美　（共同研究者）池野　　修

１　単元設定の理由

本単元では，今までに学習した表現を用いて，英語で自己紹介ができるようになることをねらいとしている。スピーチ活動を通して，自分自身について英語で書いて発表したり，友達のスピーチを聞いたりすることで４技能を総合的に身に付けることができる。スピーチの発表では，相手に伝わる発表を意識させることで堂々と自分の気持ちや考えを表現する力（自立の力）を身に付けることができる。自分の発表を認めてもらうことで自信をつけること（自尊心・自尊感情の醸成）にもつながる。また，友達の発表を聞くことで友達の表現のよさに気付き，新たな一面などを知ることができ，互いのよさを認め合う力（共生の力）を育成することができる。

２　指導の工夫

本単元では，英語でのスピーチ活動として自己紹介を行った。リハーサルでは，本番を意識してアイコンタクトや表情に注意して練習し，ペアで確認し合わせた。本番の発表会では，５人のグループで自己紹介をさせた。２回目はグループのメンバーを変えて行わせた。聞き手がスピーチの内容を理解しやすいように，絵や物を用いて堂々とスピーチさせた。よい発表会にするためには，よい聞き手がいることも大切であるので，聞くときにもアイコンタクトをとり，うなずきながら聞かせた。また，「アイコンタクト」「声の大きさ」「姿勢」の３つの観点に気を付けて発表させ，スピーチの際の態度面の育成につなげた。グループごとの発表の最後には，コメントカードによかった点などを書かせた。今回はコメントカードの１行目に，Your speech is (wonderful, amazing, interesting).と書いておき，感想を述べるときの形容詞を３つの中から選ばせて丸を付けさせた。その後は日本語で自由に感想を書かせた。最後に，スピーチ活動全体を振り返って自己評価シートを書かせ「自立の力」や「共生の力」がどう育ったか見取った。

３　単元構想（全５時間）

中学１年生で研究を行った。本単元は全５時間扱いとし，次のように学習内容と評価の規準を計画し実践した。

学　習　内　容	評　価　の　規　準	時間
自己紹介の原稿を作ろう ○既習表現を用いて，自己紹介の原稿を書く。（書くこと） ○グループで，原稿をチェックし合い，よりよい表現方法を知る。（読むこと）	◇既習表現を用いて，スピーチ原稿を書き続けようとしている。 ◇与えられたテーマについて，自分自身のことについてまとまりのある英文を書くことができる。 ◇スピーチの構成や効果的な発表の仕方について理解している。	2
グループでリハーサルをしよう ○スピーチにおける留意事項について知り，相手を意識してスピーチを行う。（聞くこと，話すこと）	◇グループ学習で，仲間と積極的に関わろうとしている。 ◇友達の自己紹介文を聞いて，その内容を理解することができる。 ◇相手に十分に伝わる音量でスピーチすることができる。	2

スピーチの発表会をしよう ○発表会を行い，評価する。 （聞くこと，話すこと）	◇アイコンタクトを行ったり，絵や物を用いたりして，堂々とスピーチを発表することができる。 ◇話し手の目を見て，うなずきながら聞こうとしている。	1

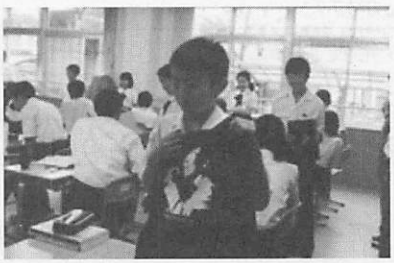
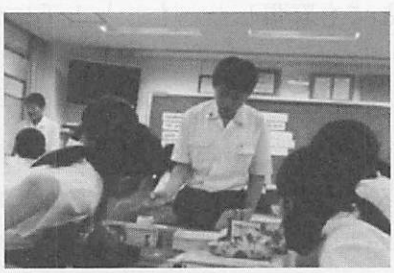
4　授業の実際（5／5時間目）

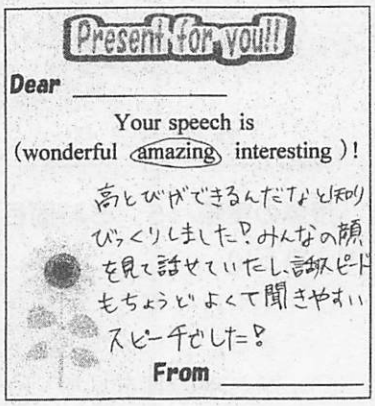
(1) ねらい

○　アイコンタクトを行ったり，絵や物を用いたりして，堂々とスピーチを発表することができる。

○　話し手の目を見て，うなずきながら聞くことができる。

(2) 展開

学習過程（形態）	時間	○学習活動　•生徒の主な反応	○指導の工夫　◇評価（方法）
1　ウォーミングアップ （一斉，ペア）	3	○Small Talk，表情作りのエクササイズを行い，英語学習への雰囲気作りをする。	
2　リハーサル （ペア）	7	Let's enjoy 1B 自己紹介！ ○教員によるモデルスピーチを見せた。 ○発表に関しての注意点を確認した。 • アイコンタクトをとる。 • 十分な声量で読む。 • 正しい姿勢で読む。 ○ペアでリハーサルを行った。 • 大きな声で読めていたよ。 • アイコンタクトがとれてるよ。  ペアでリハーサルをする様子	○自信をもって発表させるために，いいところなど，口頭で確認し合わせた。
3　発表会 （グループ）	35	○5人グループで発表した。 ○2回目，3回目はグループのメンバーを変えて行った。  発表会の様子	◇アイコンタクトを行ったり効果的に絵や物を用いたりして，堂々とスピーチをすることができたか。（観察，評価カード） ○発表者が安心してスピーチできるように，聞き手にもアイコンタクトをとり，うなずきながら聞くよう指示した。

		○コメントカードにコメントを書いた。 • ○○さんの趣味は意外だったな。 • ○○さんは，発音がよかった。  コメントカードを交換し合う様子	 コメントカード
4　活動の振り返り （一斉）	5	○今回の活動を通して，感じたことや友達のスピーチから学んだことを振り返った。	

5　研究の成果と課題

以上のような学習活動を行った後で，生徒にアンケートを実施した。表１，２，３はその結果である。これらの結果をもとに，今回の実践について考察する。

(1)　既習の英語を使って，自分の気持ちや考えを表現し伝える力の育ちを分析する。(自立)

表１　事後アンケートの結果｛対象者：１年生１クラス（40名)｝　(%)

	はい←			→いいえ
質　問　事　項	4	3	2	1
①一生懸命考えてスピーチ原稿を書いた	85	15	0	0
②人前でスピーチをすることは楽しかった	60	32	8	0
③正しい姿勢で発表しようと心がけた	55	40	5	0
④アイコンタクトをとりながら発表することができた	70	28	2	0
⑤大きな声で読むことができた	50	50	0	0
⑥絵や写真，物を用いながら上手に発表することができた	72	18	5	5

＜生徒の感想より＞

○３つのポイント（声の大きさ，アイコンタクト，正しい姿勢）を使って発表すれば，相手に伝わりやすくなることが分かった。

○友だちに自分の新しい一面を伝えることができた。

○大切な物を持って来てスピーチすることで，みんなにも興味をもってもらおうと努力することができた。

○人前でスピーチをすることはとても緊張した。もっと上手にスピーチができるようになりたい。

他教科や学級活動の時間に，すでに生徒たちは何回か自己紹介を行っており，お互いについて知っているため，今回の英語でのスピーチ活動では「友だちがまだ知らない自分の一面」について紹介するよう指示した。このことは，自分自身について考え見つめ直す機会にもなった。また，知らない自分についてみんなに伝えたいという気持ちから，意欲的にスピーチ原稿を作成することにつながった。

ほとんどの生徒が，人前でスピーチをすることを楽しいと感じることができた。しかし，初めての英語でのスピーチということもあり，緊張してしまい，自信をもって堂々と話すことができない生徒もいた。今後，練習の段階で生徒一人一人のつまずきに気付き，支援していきたい。またこれからもっと多くの語彙や表現を学ぶようになり，生徒はより豊かな表現力を身に付けていく。筋道を立てて原稿を書いたり，聞き手を意識して話したりすることができるように，工夫した指導を行う必要がある。

(2) 互いの価値観や個性を認める力の育ちを分析する。(共生)

表2 事後アンケートの結果 [対象者：1年生1クラス (40名)] (%)

	はい←			→いいえ
質問事項	4	3	2	1
①友達のスピーチ原稿をしっかり読んでアドバイスができた	75	23	0	2
②友達のスピーチを聞いて，よりよい発表になるためのアドバイスができた	75	23	0	2
③友達の発表を，アイコンタクトをとり，うなずきながら聞くことができた	58	38	4	0
④友達のスピーチを聞いて，友達の発表のよさや新たな一面を発見できた	83	17	0	0

＜生徒の感想より＞

○友達からアドバイスをもらって，スピーチ原稿をどんどんよいものにできた。

○友達のいいところを見つけたり，意外な一面を知ったりすることができた。

○自分の好みを共感してくれる友達に出会った。

○自分のことや相手のことを知ることは，とても楽しかった。

○これからもこのようなスピーチをして，もっとみんなのことを知りたい。

相手の価値観や個性を認める共生の力は，相手を受け入れることから始まる。そのため，スピーチでは，友達の発表をアイコンタクトをとり，うなずきながら聞くよう指示した。5人グループを作り，メンバーを変えて2回スピーチを行った。生徒の感想から，今まであまり話したことのなかった友達のことについて知ることができたり，小さい頃から付き合いのある友達でも新たな一面を発見できたり驚きもあったようである。また，友達の新たな一面を知ることができたり，自分の好みを共感してくれる友達に出会ったりすることで，お互いの個性を認める力にもつながった。

(3) 自分に自信をもち積極的に相手に伝えようとする力を高めることができたか分析する。

(自尊心・自尊感情)

表3 事後アンケートの結果 [対象者：1年生1クラス (40名)] (%)

	はい←			→いいえ
質問事項	4	3	2	1
①人前でスピーチを行うことで，以前よりも自信がもてた	60	28	12	0
②友達からよいコメントをもらえて，自信がついた	70	28	2	0

＜生徒の感想より＞

○何回も原稿を書いたり，練習したりするのは大変だったけれど，本番はその成果をみんなに見てもらうことができてうれしかった。

○人前で話すことに自信がついた。

○友達にほめられてうれしかったし，とても自信がついた。
○みんなが驚くようにスピーチの原稿を頑張って書いたら，ある男の子から驚くようなうれしいコメントをもらった。

スピーチを終えた後，友達のスピーチについてコメントカードに感想を書かせた。生徒は友達からのコメントをとても嬉しそうに読んでいた。１回目のスピーチで自信なさそうに発表していた生徒が，コメントカードに書かれていた言葉を読んで表情が明るくなり，２回目のスピーチでは堂々と発表する姿があった。友達に自分のことを受け入れてもらえたと肯定的に感じることができたからだと考える。他の生徒の多くも，自分のよさやがんばりを認めてもらったり，自分でも気付かなかったことをほめてもらったりすることで，自信をもつことができた。

しかし，コメントカードの内容が抽象的になったり，２回目のときは雑になったりしていた生徒がいた。どのようなコメントを書いたら相手に自分の思いが伝わるのか，いくつか例を提示するなど書き方の指導も丁寧に行う必要があった。２回目のスピーチ活動からは，内容について受け答えをしたり，少しずつ英語でコメントを伝えたりすることにもつなげていきたい。

６　おわりに

今回はスピーチ活動を通して，英語科が捉えている自立の力と共生の力の育成を図った。また，自尊心・自尊感情が高められるよう，工夫した指導を行った。スピーチ原稿を作り発表させることは，表現力を高め，互いのよさに気付き認め合う力につながった。また，スピーチの後で友達からよいコメントをもらうことで，自尊心・自尊感情の醸成につながった。今後もスピーチ活動を行う中で，工夫した指導を行いコミュニケーション能力の育成につながるよう，ますますの研鑽を積まなければならない。

研究（その2）

「インドの食習慣を理解しよう」 ～スキット活動の実践より～

（実践者）吉岡　瞳　（共同研究者）池野　修

1　単元設定の理由

本単元では，現在完了の「経験」「継続」の文を使って，これまで自分自身が経験したことやある事柄が継続して行われていることなどについて説明したりたずねたりすることとIt's…for-to～の構文を使って，自分の気持ちや考えを表現することをねらいとしている。これらの表現を学ぶことで，今まで以上に自分自身のことを伝えたり，自分の気持ちや考えを表現したりしやすくなり，より一層英語で表現することの楽しみを感じられる内容となっている。また，この単元では，アメリカの宇宙開発事業への取組やインドの食習慣を話題にしている。インドと日本の食習慣の違いをテーマとし，日本と異なる文化に出くわしたときどうするかについて表現させることで，自分の思いや考えを相手に伝える力（自立の力）を育てることができる。ペアで互いに意見を出し合い協力しながらスキット活動に取り組むことで，互いの考えた表現のよさや考えの多様性を認め合い尊重する力（共生の力）を育てることができるであろう。また，グループでスキットを評価し合い，友達からよいコメントをもらうことで自信をもち，積極的に相手に自分の思いや考えを伝えようとする力（自尊心･自尊感情）を高めることができると考え，本単元を設定した。

2　指導の工夫

本単元全体を通して，現在完了やIt's…for-to～.の構文を用いて，自分の思いや考えを伝え合う言語活動を多く取り入れ，様々な考え方や相手のよさを互いに認め合う態度を育成するように留意した。今回のスキット活動は，日本の生活習慣と異なるインドの生活習慣に対する異文化理解をテーマとした。学習課題をHow do you eat curry in India?とし，ペアに分かれてスキットを作成させた。スキットの作成がスムーズに行えるようにスキットのモデルを提示し，どんな内容のスキットにすると，より相手に伝わりやすいのか気付かせる工夫を行った。また，日常会話で比較的よく使われる驚きや喜び，相づち表現などを紹介し，会話の中でどのように組み合わせていくと自然な会話の流れになるのかを考えさせた。会話の冒頭部分に決まった表現の型を与え，ペアでスキットを作成させた。その後グループになり，ペアで作ったスキットを読み，評価し合わせた。相手ペアの表現方法や内容のよさを伝えたり，更によくなるためのアドバイスを行ったりすることで，表現力や積極的に相手と関わりながら自分の思いや考えを伝えようとする力を高められるよう工夫した。

3　単元構想（全11時間）

今年度は中学３年生で研究を行った。本単元は全11時間扱いとし，次のように学習内容と評価の規準を計画し実践した。

学　習　内　容	評　価　の　規　準	時間
継続していることを聞いたり説明したりしよう ○現在完了の継続用法について正しく理解し表現する。　（読むこと，聞くこと）	◇現在完了の継続用法が用いられた英文を読んだり聞いたりして，内容を理解することができる。	2
継続して行っていることについてたずねよう ○How longで始まる現在完了の継続用法の疑	◇How longで始まる現在完了の継続用法の疑問文を用いて，相手にたずねたり答えたりすることが	2

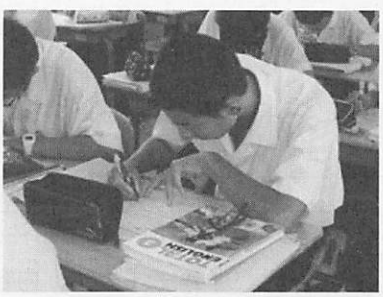
問文について正しく理解し表現する。 （話すこと，聞くこと）	できる。	
経験したことを聞いたり説明したりしよう ○現在完了の継続用法について正しく理解し表現する。（読むこと，聞くこと）	◇現在完了の経験用法でよく使われる語句を理解し，経験したことを表現したり，相手にたずねたりすることができる。	2
It's･･･for-to ～ .の構文を用いて，自分の思いや考えを伝えよう ○It's･･･for-to ～ .の構文について正しく理解し表現する。（書くこと，読むこと）	◇It's･･･for-to ～ .の構文を用いて，自分の思いや考えを書くことができる。 ◇日本とインドの食習慣の違いについて理解を深めることができる。	2
スキットを作って演じてみよう ○インドの食習慣について知り，ペアでスキットを作成し発表する。 （話すこと，聞くこと，書くこと，読むこと）	◇会話の流れに工夫を凝らしながら，ペアで協力してスキットを作って演じることができる。 ◇友達が考えた表現のよさや考えの多様性を認め合うことができる。	3

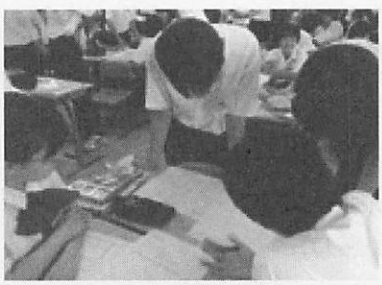
4　授業の実際（9／11）

(1)　ねらい

○　スキット活動を通して互いに評価し合うことで，考えの多様性や表現のよさを認め合うことができる。

(2)　展開

学習過程（形態）	時間	○学習活動　・生徒の主な反応	○指導の工夫　◇評価（方法）
1　学習課題の確認 （一斉）	3	**How do you eat curry in India?**	
2　スキット作成 （個人→ペア）	25	○インドでどうやってカレーを食べるかを考え，自分の意見を入れながら会話を考えた。 ・右手を使って食べようかな。 ○会話が続き，相手が興味をもって聞けるような会話の仕方について考えた。 ・驚きの表現を入れるといいな。 ・By the wayを使うと，話の展開がおもしろくなるかもしれない。  個人でスキットを作る様子	○スキットをスムーズに作らせるために，生徒が想像しやすい場面を設定し，会話のモデルを実演して見せた。 A : Did you have a good time in India? B : Yes. It was exciting. A : Oh, that's good. Did you eat curry? B : Yes, of course. But I was surprised A : Why? B : Because they were eating curry on A : Really? How did you eat your curry B : With my right hand. A : Was it difficult? B : Yes. I tried, but it was difficult. A : How did you use your right hand? B : I used it like this. A : Wow! That's cool. I want to try it a 会話のモデル ○自然な会話の流れを考えやすくさせるために，会話で使いそうな単語や相づち，驚きの言葉など日常会話でよく使う表現を与えた。

		○意見を交換し合いながら，協力してスキットの内容を考えた。 • おもしろい表現を取り入れて話のオチを作ろう。 • できるだけ習った表現を使った方が，相手に伝わりやすい。  ペアで作る様子	<会話でよく使う表現> ◇話をつなぐ◇ Well.... ええと，それでは By the way ところで Um... うーん。 ◇驚きや喜びを表す◇ Wow! うわあ！ Great! すばらしい！ That sounds good. それはよさそうだね。 ◇相づちを打つ◇ I've got it. そうか，分かった。 Really? えっ，本当？ Oh, I see. なるほど。 That's right. その通りです。 I didn't know that. 知らなかったよ。 How exciting! へえ，すごい！ That's interesting. それはおもしろいね。 That's amazing. それはすばらしいね。 Unbelievable. 信じられない！ You're kidding! 冗談でしょう，まさか！ 驚きや相づち表現を載せたプリント ○ スキットを作成しやすくするために，会話の冒頭部分には決まった表現の型を与えた。
3 スキットの評価 （ペア→グループ）	17	○グループで互いのペアが作ったスキットを読み合い，評価やアドバイスをした。 • もう少し簡単な表現を使うと分かりやすくなる。 • 思いつかなかった表現を使っている。  評価し合う様子	A Did you have a good time in India? B Yes. It was [exciting / interesting / fun]. A Oh, that's [good / nice / wonderful]. Did you eat curry? B Yes, of course. But I was surprised to see the Indian people. A Why? B Because they were eating curry only with their right hand. 会話の冒頭部分 ○友達が作ったスキットの内容や表現のよさに気付かせるために，感心したところや，更によくなるためのアドバイスをコメントシートに書かせた。 ◇スキットを聞いたり読み合ったりして，互いに評価し合うことで，友達の考えの多様性や表現のよさを認め合うことができたか。 （観察・コメントシートの記述分析）
4 活動の振り返り （一斉）	5	○今回の活動を通して，感じたことや友達のスキットから学んだことを振り返った。	

5 研究の成果と課題

以上のような学習活動を行った後で，生徒にアンケートを実施した。表１，２，３はその結果である。これらの結果をもとに，今回の実践について考察する。

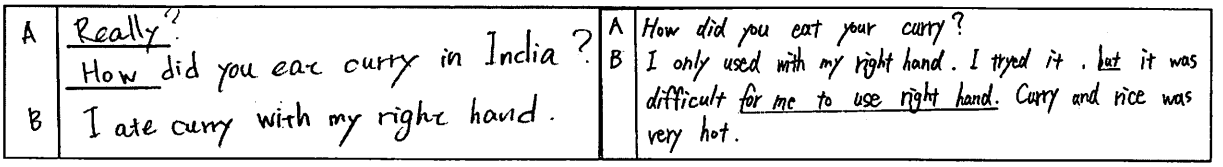
(1) 既習の英語を使って，自分の気持ちや考えを表現し伝える力の育ちを分析する。（自立）

表１　事後アンケートの結果 {対象者：３年生１クラス（38名)}　(%)

質問項目	はい←			→いいえ
	4	3	2	1
①自分の考えをもって，英語で表現することができた	68	26	6	0
②アイデアを積極的に伝えることができた	68	29	3	0
③聞き手にとって分かりやすいスキットを作ることができた	42	45	13	0
④自然な会話の流れのスキットを作ることができた	61	29	10	0

＜生徒の感想より＞
○積極的に今まで習った英語の表現を使えたので，充実したスキット作成活動となった。
○自然な会話の流れを作ることができるように，Really? やOh! などの台詞をところどころに入れながらスキットを作ることができた。
○スキットは異文化がテーマだったので，その文化の内容や異文化のよいところを台詞に表現し，それを尊重できるようなスキットを作ることができた。
●スキットの台詞にしたい日本語は思い浮かぶけれど，それを英語に直すのが難しかった。

ほとんどの生徒が，学習した英語の表現を使って自分の思いや考えを相手に積極的に伝えることができていた。昨年度の活動の様子から，会話の出だしをどういうふうにしていくのがよいのか迷う生徒がいたことから，スキットの冒頭部分には決まった会話の型を与え，会話の流れをつかみやすくした。そうすることで，個人でスキットを作る際，英語を書くことに抵抗をあまり感じることなく意欲的に活動に取り組めていた。自分ならインドでどのようにしてカレーを食べるのか考えをまとめた後，会話を想像しながら，外国人が普段の会話でよく口にする相づち，驚きの表現やつなぎ言葉をうまく会話の中に取り入れ，自然な会話の流れになるようアイデアを広げながらスキットを書いていた。しかし，一人で作成した会話文の内容を分析していくと，１年生で学習した比較的短くて簡単な表現を使っている英文がやや多かった。一方で，３年生で学習した受け身の文や現在完了などの表現をうまく使っている生徒もいた。このように，既習した表現を総合的に使って英文を書く創作活動においては，今までの英語表現の知識を生かし，うまく使いこなしていく力にやや差があると感じた。



個人で作った時のスキット

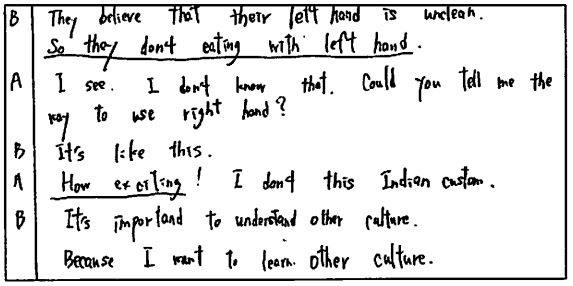
(2)　互いの価値観や個性を認める力の育ちを分析する。(共生)

表２　事後アンケートの結果 {対象者：３年生１クラス（38名)}　(%)

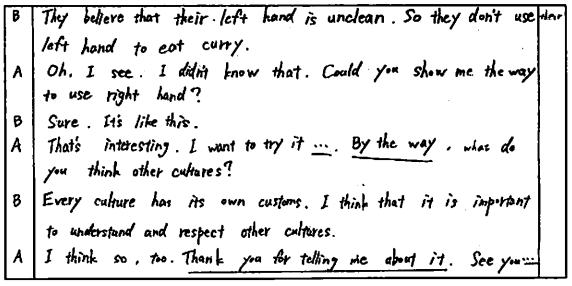
質問項目	はい←			→いいえ
	4	3	2	1
①相手の考えや表現のよさを認めることができた	79	21	0	0
②相手ペアに，よいところやよりよくするためのアドバイスを伝えることができた	37	61	2	0
③相手ペアのスキットは，自分達のスキットをよりよいものにするのに役に立った	37	61	2	0
④同じテーマでも，ペアによってスキットの内容が異なっていておもしろいと思った	87	13	0	0

＜生徒の感想より＞
○他のペアのスキットを読むと，自分たちと話の展開の仕方が全く違っていておもしろかったし参考になった。
○ペアとアイデアを出し合い，表現を見直しながらスキットを作ると，一人で考えたときよりもいいものになった。
○他のペアのスキットを読んで，僕たちが使っていなかった新しい表現を知ることができた。

ペアでのスキット作成活動と，グループでスキットを読み合い評価し合う活動では，多くの生徒が，互いの表現のよさを認めたり，よりよいスキットにしようと積極的にアイデアを言い合ったりする姿が見られた。話の展開の仕方には，どのペアも様々な工夫を凝らしおもしろい内容となっていたため，考えの多様性を知るよい機会になったと感じていた。最初にペアで作ったスキットとグループで評価し終わった後，手直しをしたスキットでは，はるかにスムーズな会話の流れになっていたし，３年生で学習した表現や教科書に載せられていることわざをうまく会話の中に取り入れ，内容がより豊かなものになっていた。


B They believe that their left hand is unclean. So they don't eating with left hand.
A I see. I don't know that. Could you tell me the way to use right hand?
B It's like this.
A How exciting! I don't this Indian custom.
B It's important to understand other culture. Because I want to learn other culture.

ペアで作ったスキット


B They believe that their left hand is unclean. So they don't use left hand to eat curry.
A Oh, I see. I didn't know that. Could you show me the way to use right hand?
B Sure. It's like this.
A That's interesting. I want to try it …. By the way, what do you think other cultures?
B Every culture has its own customs. I think that it is important to understand and respect other cultures.
A I think so, too. Thank you for telling me about it. See you…

評価し合った後，手直しをしたスキット

(3) 自分に自信をもち積極的に相手に伝えようとする力を高めることができたか分析する。
（自尊心・自尊感情）

表３　事後アンケートの結果 {対象者：３年生１クラス（38名)}　(%)

質問項目	はい←			→いいえ
	4	3	2	1
①友達からよいコメントをもらえて自信がついた	37	55	8	0
②評価し合うことは，互いの考えを知ったり，表現のよさを認め合ったりするために有効的だった	79	21	0	0

＜生徒の感想より＞
○友達からアドバイスやいいところを言ってもらったので，スキット作りを楽しみながら取り組め，学習も深めることができた。
○自分の意見を他のペアの人に高く評価してもらって嬉しかった。
○ペア同士でスキットを評価し合ったときに，他のペアのよいところを取り入れたいと思った。

自尊心・自尊感情が高められるように，作成したスキットを互いに評価し合う場を設け，具体的によいところと更によくなるためのアドバイスを中心にコメントシートに書かせた。スキットの内容や表現の仕方が工夫されているなど，アドバイスよりもよいところや感心したところについてのコメントが多く書かれていた。友達が作った表現のよさを認めることで，友達の表現の仕方のうまさや多様な考え方があることに気付き，また自分が考えた表現を友達から認めてもらうことで，作ったスキットが相手にしっかり伝わったのだと実感でき，英語で表現することへの自信につながったのではないかと思う。しかし，コメントシートを相手ペアに渡す際，書いた内容を伝えず，ただシートを渡すだけのグループがあった。渡す時に，よかったところについて相手

にまず言葉で伝えることで，より自尊心・自尊感情の醸成につながったのではないかと思う。

Good Points	相手のセリフに、しっかりリアクションをとっていてよい。 日本でも実際にインドの作法で食べてみておもしろい。	"By the way" でスキットを新たな展開にもっていっている所がよかった! "Thank you for telling me about it." があるので終わり方が自然でいい。
Advice	文化についての思いにふれたらもっとよかった。	"I want to try it." の後 その話題を続けられたらもっとよくなる!

コメントシートの内容

6　おわりに

今回は異文化理解をテーマとし，ペアによるスキット活動によって，英語科が捉えている自立の力と共生の力の育成と自尊心・自尊感情を高めるよう研究を進めた。インドの食文化の違いを理解し，スキット活動をしていく中で，友達と関わりながら互いの考えの多様性や様々な表現の仕方のよさに気付かせることは，英語科が捉える自立の力，共生の力の育成と自尊心・自尊感情の醸成につながったのではないかと思う。これからも生徒が生き生きと自己を表現し，他と関わりながら意欲的に言語活動に取り組めるよう，ますますの研鑽を積まなければならない。

第3章　おわりに

「ESDを踏まえたコミュニケーション能力を育成する指導の工夫」の研究テーマのもと，英語科では，自立の力を「自分の気持ちや考えを表現し，伝える力」，共生の力を「互いの個性や存在を認め，異なる文化や価値観をもった人々とともに生きていくための力」と捉え，研究を進めてきた。今年度は特に，自尊心・自尊感情を醸成するための指導の工夫についての研究も行い，自分に自信をもち積極的に相手に働きかけようとする力を高めることができたか分析した。

「自立の力」を高めるために，４技能を総合的に育成することを意識したスピーチやスキット活動を取り入れたことは成果があった。生徒は豊かな想像力や自分の考えをもっており，そのことを発信できる喜びや楽しさを味わうことができた。最初は恥ずかしさや苦手意識をもっていた生徒がいたが，回数を重ねるごとに，相手に自分の思いや考えを伝える力を向上させることができた。また人前で堂々と自己表現ができるためには，生徒の「伝えたい」という気持ちも大切である。意欲をもって取り組むことができるテーマを与えたことも，自立の力の育成につながったのではないかと考える。

「共生の力」については，グループやペア学習を通して，友達の様々な考えに触れることで新たな「気づき」が生まれ，仲間と関わり，共に学び合うことの大切さや楽しさを感じることができた様子であった。スピーチやスキット活動の発表後は，まず相手のよいところや感心したことについて感想を言わせた。このことも，相手を肯定的に受け入れることにつながり，互いの価値観や個性を認める力の育成になったのではないかと考える。

「自尊心・自尊感情の醸成」について，発表後ペアやグループで評価し合う場面を作った。相手から内容や発表の仕方について，よいコメントをもらうことで自信をもつことにつながった。特に１年生は，人前で英語でスピーチをする機会は初めてだったので，不安に感じていた生徒がいた。しかし，スピーチを実際にやってみることで，生徒は英語で話す楽しさを味わい，自信をもって英語で自分自身を表現していた。３年生は，緊張している姿はあまり見られず，表現活動を楽しんでいる様子だった。人前で英語を話す機会を重ねていくことで，自信をもって活動できることにもつながると思う。しかし，相手に感想を伝える方法や内容については不十分な点がいくつか挙げられたので，今後の課題としたい。

だれもが安心して暮らせる社会を作っていくために，４技能を総合的に育成する言語活動を通して，自他を認め自信をもって発信していこうとする力をもった生徒を育成していくための研究を今後も進めていきたい。